



研究用試薬

ヒストファイン

脱パラフィン/親水化/抗原賦活化

HEAT PROCESSOR Solution pH9

包装：試薬A 150mL × 4本 Code：715291
試薬B 150mL × 4本

製造販売元

株式会社ニチレイバイオサイエンス

〒104-8402
東京都中央区築地 6-19-20
TEL. 03(3248)2208 FAX. 03(3248)2243

1. 内容

10倍濃縮のHEAT PROCESSOR Solution pH9は次の試薬から構成される。

液状。

試薬A … 150mL × 4本

試薬B … 150mL × 4本

*2. 使用目的

温浴装置*とともに使用する。

本品は、パラフィン包埋切片に対し、組織切片上のパラフィン除去(脱パラフィン)及び親水化、熱による抗原賦活化処理を同時に行うための試薬である。

パラフィン包埋切片の免疫組織(細胞)化学染色を行う際、パラフィン固定組織ブロックを3-6μmに薄切してスライドに貼付した組織切片上から、キシレンを用いてパラフィンを除去後、エタノールを用いて親水化を行う必要がある。さらに、使用する第一抗体の特性によっては、目的抗原を検出するために、その染色強度を増強する目的で、熱による抗原賦活化(オートクレーブ、マイクロウェーブ、温浴等)処理を必要とする。本試薬は、それらの前処理(脱パラフィン、親水化、熱による抗原賦活化処理)を必要とする切片の温浴処理に使用することができる。また、脱パラフィン及び親水化を目的とした使用や、脱パラフィン及び親水化がなされた切片に対して熱による抗原賦活化処理を目的として使用することもできる。

注1) オートクレーブ処理、マイクロウェーブ処理には適さないので使用しないこと。

注2) 各施設で包埋に用いているパラフィンの融点や含有物の有無により、脱パラフィンが不十分になる場合がある。

注3) 第一抗体によって適さない場合があるため、HEAT PROCESSOR Solution pH9に適するヒストファイン 第一抗体については弊社までお問い合わせください。

*3. 試薬の調製

HEAT PROCESSOR Solution pH9 試薬A：HEAT PROCESSOR Solution pH9 試薬B：精製水=1：1：8になるようにそれぞれはかり、十分混和後、溶液を静かに温浴装置のタンクに移す。

*4. 使用方法

本試薬は調製後、常温(15-25℃)で1週間保存可能であり、3回まで繰り返し使用できる。

注1) 保存期間を経過した場合及び3回使用後は、廃棄すること。注2) 溶液の1タンク(800mL)あたりのスライド処理枚数は、合計36枚までとすること。

(例) 1スライドラック(スライド12枚)を1タンクにセットして使用する場合、溶液は3回繰り返し使用することができる。

注3) 使用後の溶液は、一般廃液として廃棄すること。

1) 切片の準備：切片をシランなどのコーティングスライド上に貼り付ける。

2) 調製したHEAT PROCESSOR Solution pH9(以下、抗原賦活化液)を温浴装置のタンクに入れ、スライドをセットし、温浴処理を開始する。温度制御可能な温浴装置の場合、65℃に温めた後、スライドをセットすることを推奨する。

※スライドをセットする際、軽く数回振とうを行うとスライドガラス上のパラフィンが溶解しやすい。

3) 温浴処理終了後、PBS(ヒストステイナー用)(コード：715224)又は0.05% TWEEN20含有のPBSにて洗浄を行う。

※この際、軽く数回振とうを行うこと。

※温浴処理後は、タンク内の抗原賦活化液が高温になっている。取扱う際は、手袋等を使用し火傷に注意する。

4) 洗浄終了後、免疫組織化学染色を行う。

*5. 処理条件の設定

- ・脱パラフィン及び親水化、熱による抗原賦活化処理を同時に行う、又は熱による抗原賦活化処理のみを行う場合
 - 1) 温浴処理温度 100℃
 - 2) 処理時間 40分間
- ・脱パラフィン及び親水化のみを行う場合
 - 1) 温浴処理温度 65℃
 - 2) 処理時間 5分間

*6. 貯法及び使用上の注意

1. 2-30℃保存。ただし、開封後のバイアルは2-8℃にて保存すること。また、調製後の溶液は常温(15-25℃)で1週間保存可能。繰り返し使用は3回までとする。
2. 使用期限はラベルに記載されているので使用前に確認すること。
3. 異なるロットの試薬や他製品の試薬を混ぜたりしないこと。

*7. 取扱い上(危険防止)の注意

1. 使用期限の過ぎた試薬は使用しないこと。
2. 本製品に関する化学物質の安全情報は安全データシートを参照すること。
3. 本品を吸い込んだり、眼、口、皮膚、衣類などへの接触を避けること。
4. 本製品の廃棄の際には、各施設や地域及び国のルールに従い、適切に廃棄すること。
5. 試薬Aにはアジ化ナトリウムが含まれている。アジ化ナトリウムは有毒化学薬品である。本製品の含有量は危険なものとして分類されないが、蓄積されたアジ化ナトリウムは爆発性の金属アジ化物として形成され、水道管に含まれる銅、鉛と反応する可能性がある。そのようなリスクを避けるために大量の水とともに洗い流すこと。
6. ヒト由来の検体は、取扱者に感染をひき起こす危険性がある。従って、適切な取扱い及び廃棄法を用いるとともに、この免疫組織(細胞)化学染色法を施行するに際し、関連技術及び操作法に充分習熟しておかなければならない。

*※：温浴装置 推奨機種：ヒストファイン HEAT PRO II(株式会社ニチレイバイオサイエンス社製)
PT Module (Thermo Fisher Scientific 社製)